



【石巻市／木の屋石巻水産】

平成23年3月11日、宮城県沖で発生した大地震は、巨大な津波と共に港町を一瞬のうちに飲み込んだ。地震発生後の30分後には、津波の第一波が到達し、瞬く間に沿岸の町のほぼ全てが波に飲まれた。津波により、町の60,000台近い数の車が海に引き込まれ、車の中に閉じ込められた尊い命が犠牲になった。

津波が引く2日間は、避難所から出ることも出来ず、食料もなく、携帯電話の基地局も被災したため、外部との連絡も絶たれ、先の見えない絶望感を味わった。津波が引いた後の町並みは全く意味のわからない状況だった。逆さになって民家に突っ込んでいる大型トラック。あるはずのないところに乗り上げている大型船。自宅のあったはずの場所には基礎コンクリートしか残っていない。もちろん「木の屋石巻水産工場」も跡形がなくなっていた。

ところが・・・

工場の瓦礫を片付けている時に、瓦礫の下に大量の缶詰が埋まっていることに気付いた。津波から離れて避難所にいる時、支援物資も充分に行き届かない中、津波で流れてきた「缶詰」を食べて多くの方が元気を取り戻してくれた。しかし、津波によってどこもしれず流されたと思っていた「缶詰」の多くが工場跡に堆積した瓦礫や泥の中に残っていたのです！

避難所で元気をくれた「缶詰」、この缶詰を発掘し、一人でも多くの方にお買い上げいただければ復興のための資金を自分たちで集めることが出来るかもしれない！その日からボランティアの方々にも協力をしていただき、缶詰の発掘を始めた。

震災後、発掘した「缶詰」を持って【希望の缶詰】として全国各地で販売をした。津波の影響で、包装は剥がれたり錆もあり、普段であれば商品とはいええない裸の缶詰だった。それでも、本当に多くの皆様に、温かい言葉をかけていただき購入してくれた。

発掘した【希望の缶詰】は3,000人のボランティアの方々にお手伝いいただき、40万個を販売した。

■現在【希望の缶詰】は完売しており、希望の缶詰の収益で【感謝の缶詰】を商品化しました。